

令和6年度 東京都立府中けやきの森学園 学校経営報告

1 今年度の取組目標とその達成に向けた具体的方策と成果

【自己評価】◎：高い水準で達成（目標値10%超）、○：達成（目標値超）

△：一部未達成（目標値20%減まで）、×：未達成（△に至らない）

(1) 経営目標の明確化と共有

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

①ウェルビーイング達成のためのQOLの向上につながる学びの充実〈△〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 65.7% 教職員：満足 75.3% 平均：70.5%

- ・「東京型教育モデル」の3つの学び（意欲を引き出す「学び」、社会全体に支えられた「学び」、ICTを活用した「学び」）をベースに個のニーズに合わせた教育を推進した。
- ・「意欲を引き出す学び」については、個々の障害の理解に基づき、基本的な生活習慣、学力の基礎・基本の定着を目指すとともに、選択、自己決定できる授業を全教員で取り組んだ。
- ・「社会全体に支えられた学び」については、小・中・高等学校との学校間交流を保護者間交流も含めて実施するとともに、地域の小・中との直接副籍交流を45名について実施した。高等部では、職場体験、現場実習を地域の多くの企業の協力を得て実施した。また、警察や消防と連携した不審者対応訓練や総合防災訓練の取組、地元ラグビーチームとの協働体験なども行った。さらに、調布特別支援学校と駅前花壇の整備など地域貢献活動、府中工科高校、府中西高校とのeスポーツの体験交流などを実施した。
- ・「ICTを活用した学び」については、すべての児童・生徒に対して日常的に授業で活用するようになってきた。調べ学習、タブレット上の問題解答、学習者間での意見交換・共有、また、見えにくい位置の物の呈示、視線入力アプリの活用など、学級や学習グループで様々な活用がなされ、個別的な学びや協働的な学びが深まっている。また、肢体不自由教育部門で準ずる教育課程では、引き続きデジタル教科書の活用に関する研究を都教育委員会と連携して進めている。

②各学習のねらい、評価規準（3観点評価）を明確にした保護者への説明と課題の共有〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 91.5% 教職員：満足 75.3% 平均：83.4%

- ・年度初めに個別指導計画の目標を3観点に基づき保護者に説明し共有を図り、年2回の評価の際にできたところ、なぜできなかったのか、どうすればよいか等丁寧な説明を行った。
- ・3観点評価について、「知識・技能」は児童・生徒が身に付けるべき基礎・基本、「思考力・判断力・表現力等」は、児童・生徒が主体的にそれを使っていくことという理解が教員及び保護者間で進んだ。

③学校経営方針・学校経営状況の周知徹底〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 80.9% 教職員：満足 84.5% 平均：82.7%

- ・毎月の学校だよりの発行計画を策定し、学校経営計画で示した内容の具体的な活動についてリアルタイムで保護者・地域等に伝わるようにした。随時のトピックスがあれば、発行計画を柔軟に追加・変更し、本校の経営方針が伝わるようきめ細やかに発信した。
- ・学校経営方針及び学校経営状況を広く知ってもらうために、広報活動を充実させた。ホームページの更新回数は目標の200回に対して、223回行った。

(2) 経営目標の達成に向けた研究活動の充実

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

ウェルビーイングを目指したQOL向上を図るためのカリキュラム・マネジメント〈△〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 60.0% 教職員：満足 68.9% 平均：64.5%

- ・毎月の研究日をカリキュラム・マネジメントタイム（年3回は短縮日を活用したロングバージョン）とし、肢体不自由教育部門は、自立活動について、知的障害教育部門では、合わせた指導の在り方について研究を進めた。
- ・ウェルビーイングの概念について指導教諭がキーワードを整理し、全教員に提示・共有し、研究授業実施者は、それらのキーワードから内容を選択して授業実践に取り入れるようにした。
- ・保護者・教員とも、アンケート回答では「判断できない」が多く、ウェルビーイングの学校教育における意味を保護者、教員に分かりやすくかみ砕いて説明する必要がある。
- ・全教員が一人1実践（研究授業（136回）・相互の授業参観（211回）・教材の作成及び活用（教材展年3回）を行い、授業改善を図った。
- ・全研究授業（136回）を4級職以上が原則複数で授業観察（校長による授業観察53回を含む）し、授業後の研究協議会では積極的な意見交換、指導教諭等からの指導・助言を行った。
- ・令和7年度の年間指導計画（知的障害教育・知的代替、自立活動主）作成に当たっては、令和6年度中に学習指導要領の各段階に照らして指導内容が適合しているか点検を行い、改善を図った。

(3) 教育効果を高める環境整備の徹底

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

①「4S（整理、整頓、清潔、清掃）」の徹底〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 81.6% 教職員：満足 79.5% 平均：80.5%

- ・日頃から4S「整理、整頓、清潔、清掃」活動を推進した。廊下の物品の管理、教室内の整理・整頓、職員室等のクリーンデスクなど教員間の意識に根付き共有できた。
- ・技能主事による、校内全域の廊下の床めくれの補修、手すりのささくれのやすりがけを行い、安全確保に努めた。
- ・校内アートプロジェクトとして、児童・生徒の優れた作品を選考・表彰し、廊下壁面に展示した。
- ・学校薬剤師による指導・助言の下、各学級において教室換気、室温・湿度等を定期的に行い適切に管理した。

②GIGA端末やスマートスクール端末を活用した児童・生徒の学びを深める教育の推進〈△〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 53.7% 教職員：満足 71.2% 平均：62.5%

- ・全教員が児童・生徒の実態に応じて、ICT機器を活用した授業を実施した。その際、校内支援体制（支援サポーター）を整え、協働した。
- ・肢体不自由教育部門（準ずる教育課程）におけるデジタル教科書の活用について、都教育委員会と連携し教育内容の充実を図るための研究を推進した。（指定研究事業）
- ・視線入力・スイッチ類、プログラミング教材など、様々な側面から、研修等をとおして、ICT機器の効果的な使い方を広めていく必要がある。
- ・タブレット端末を、児童・生徒の自宅に持ち帰らせて、家庭学習の道具として使わせるなどの工夫をさらに進めていく必要がある。

(4) 健康と安全に係る教育（支援）の充実

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

①健康教育の充実（○）

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 66.7% 教職員：満足 79.0% 平均：72.9%

- ・心の健康教育に関し、切れ目のない支援体制の構築を目指して、多摩府中保健所と共同で制作した「SOSの出し方に関する教育」の普及啓発ツール「モヤモヤって何だろう」を使い、両部門高等部生徒に、卒業後にも地域の支援者がいることを知らせた。
- ・歯科校医や歯科衛生士による発達段階に応じた適切な口腔衛生とブラッシング指導を行い、児童・生徒に口腔衛生の大切さを学ばせるとともに歯磨きの習慣づけに資した。
- ・摂食指導に関しては、年度初めに専門の小児科医による悉皆研修を実施するとともに、必要な児童・生徒に月に1～2回の摂食相談を行った。
- ・感染症対策に関しては、今年度一杯マスク、手洗いの励行、換気を奨励し、コロナ、インフルエンザとも、蔓延による学級閉鎖等に至ることはなかった。

②安全教育・安全管理の充実（◎）

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 84.4% 教職員：満足 92.2% 平均：88.3%

- ・児童・生徒自身の「危険を予測し回避する能力」の向上に向けて、毎月実施の避難訓練（火災・地震・水害・竜巻・Jアラート）の充実を図った。
- ・府中市防災危機管理課、府中消防署、都立公園、社会福祉協議会と連携し、全児童・生徒が消火体験、起震車体験、防災グッズ制作、仮設トイレ設営などの各ブースを体験し、自助・共助・公助を学ぶ全校総合防災訓練を実施した。
- ・府中市防災危機管理課と連携し、高等部生徒を対象に避難所設営講座を実施した。
- ・大規模地震を想定した引き取り・引き渡し訓練に併せて、地域町内会の協力も得て高等部1年生を対象とした宿泊防災訓練を実施した。その際、教員による発電機起動・ハイブリッド車の給電機能活用訓練も行った。
- ・夏の暑さ対策において、全教室への窓クーラーの設置、校内の3か所のエレベーターの更新を行った。冬季には約1か月に渡り全館暖房設備の故障により、全教室へのストーブの借り入れの対応を行った。次年度の9月頃の教室内の暑さ対策について、対応を計画している。

(5) 本校の喫緊の課題解決

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

「学校における働き方改革推進プラン」に基づく教職員のライフ・ワーク・バランスの推進（△）

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 56.5% 教職員：満足 60.3% 平均：58.4%

- ・月に1回、教職員の働き方（在校時間、業務内容等）を把握し、長時間勤務の是正に努めた。
- ・年間の年次有給休暇等の取得について目標値を定め、計画的な取得を促した。
年次有給休暇取得：15日以上（達成率：97.1%）夏休取得：5日（達成率：100%）
- ・男性の育児休暇取得を推進した（4名）。
- ・令和9年度から水曜日を全校1便下校日とすることにより、全教員の職務時間内に会議や研修時間の集中化を図ることを決定し、年間の総授業時間数を学習指導要領が定める標準時数より適切に上回る設定とする計画を立案した。
- ・給与明細電子発行率の向上に努め、経営企画室の作業効率の向上を図った。（達成率：92.1%）

2 次年度以降の課題と対応策

本校に在籍する児童・生徒には、本校での12年間の教育をとおして、卒業後の人生を生きていくための土台となる様々な資質・能力を身に付けてほしいと願っている。今年度、将来社会の中で生きていく児童・生徒の姿をイメージしながら、自他ともにより良く生きる「ウェルビーイング」を教育活動の理念に据えた。その手段として、一人一人異なる児童・生徒のQOL（クオリティ オブ ライフ「生活の質」）の向上を図ることを進めてきた。

今年度は、教育活動の基本的な計画である教育課程をどのように組み立てると児童・生徒のより良い成長につながるかということで、「ウェルビーイングを目指したカリキュラム・マネジメント」を全校の研究テーマとして、教育実践に直結させるため、教育課程の改善、授業の改善・充実を図ってきた。

しかし、ウェルビーイングの意味が具体的に伝わりにくかったということも学校評価アンケートで浮き彫りとなった。次年度は、これをわかりやすくかみくだいて、児童・生徒、保護者、教員に伝えていく必要がある。本校で、ウェルビーイングを達成するためには、基本は信頼関係の構築であると考えている。児童・生徒、保護者の言葉や願いをしっかりと受け止める、そしてそれを目標や指導内容として返すというキャッチボールが大切である。それをとおして児童・生徒が、自分が大切にされているという実感をもてるようにすることがウェルビーイングの第一段階である。そして、周りから受け止められているという感覚の下で、自分で状況をコントロールできるという実感ももてるようになることがウェルビーイングの第二段階となる。そこから一人一人が「自分らしく成長していく」ウェルビーイングに分化していくと考える。教員は、児童・生徒一人一人のウェルビーイングに向かう過程を把握する感度を上げる必要がある。このようなことを、次年度は様々な場面で伝えていきたい。また、本校を卒業した生徒は、様々な人とかかわりながら地域社会あるいはもっと広く世界で活躍していくことになる。そのため、学校として、地域とのかかわりを大切にし、教育活動においても地域との連携を重視していく。地域の様々な活動への参加、地域の人材の力を借りる、本校の児童・生徒が地域貢献活動を行うなど具体的に取り組んでいく。その際、対面で行うことのみでなく、ICTをツールとして積極的に活用し活動に取り入れていく。

併せて児童・生徒が健康で安心・安全に学校生活をおくることができる環境を整えることをもう一つの柱として引き続き取り組んでいく。その際、児童・生徒が主体的にかかわる糸口として、持続可能な社会づくりへの関与、貢献を挙げたい。

○目指す学校

児童・生徒が「自分らしく成長していく」ウェルビーイングを目指し、教育活動を展開する学校
児童・生徒が健康で安心・安全に生活できるよう主体的にかかわっていく学校

○経営目標の策定

児童・生徒が「自ら未来を切り拓いていくための学び」を基盤とした教育活動を推進する。
児童・生徒が効果的に学ぶことができるよう、様々な側面から配慮した環境を整えとともにSDGsに関する教育を推進する。